

発寒ひかり 保育園だより

2019年
12月号

巻頭言

先日のクリスマス子どもお祝い会では、子どもたちの日頃の遊びや、合唱などでイエス・キリストの生誕を楽しくお祝いしました。7日の親子お祝い会を、どうぞお楽しみにも。

さて先月、ローマ教皇が長崎と広島で演説し、核兵器の廃絶と平和の実現を強く訴えましたね。「核の威嚇に頼り、平和を提案できるか」と問いかけ、核兵器の使用は犯罪であり、武器の開発はテロ行為だと糾弾しました。日本が米国の核の傘を利用し、核兵器禁止条約に反対し、武器を製造・販売（先日初めて日本で見本市を）していることを暗に批判したのでした。また、その資源を、人類の発展と自然環境の保全に使うべきだと指摘しました（裏面に新聞記事）。

この教皇の名前フランシスコは、ローマカトリックの存在した聖人の名前から取ったものです。その「聖フランシスコの平和を求め祈り」が今に伝えられています。

わたしをあなたとの平和の道具としてお使いください
憎しみのあるところに愛を

いさかいのあるところにゆるしを

分裂のあるところに一致を（略）

闇に光を

悲しみのあるところによろこびをもたらすものとしてください

（略）わたしたちは（略）

自分を捨てて死に

永遠の命をいただくのですから

これら2人のフランシスコの言葉を深く心に刻み、今年のクリスマス親子お祝い会を迎えたいと思います。

園長 吉田 行男

ローマ教皇 核廃絶訴え

長崎・広島で

「核の威嚇に頼り 平和提案できるか」



訪日しているローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇は24日、被爆地の長崎と広島を訪れて演説し、核兵器の廃絶を強い言葉で訴えた。「核戦争の脅威で威嚇することに頼りながら、平和を提案できるのか」と問いかけ、核保有だけでなく核抑止も否定し、米国の核の傘に入る日本を暗に批判した。米ロの中距離核戦力（INF）全廃条約の崩壊など、核軍縮の後退を懸念し、被爆の記憶継承と団結を世界に呼びかけた。

▼2面―踏み込む教皇、6面―社説、27面―被爆者らは

教皇は同日午前、大雨のなか長崎市の爆心地公園を訪れ、「核兵器に関するメッセージ」を発表。午後には広島市の平和記念公園で「平和のための集い」に出席し、平和を願って演説した。教皇の長崎・広島訪問は、冷戦下だった1981年の故ヨハネ・パウロ2世以来、38年ぶり。

フランシスコ教皇は二つの演説で、被爆地を「人間が過ちを犯しうる存在だ」とも述べた。

「武器開発 テロ行為」

また、軍拡競争が続く世界の現状を激しい言葉で批判した。長崎では、武器開発について「テロ行為だ」と糾弾した。そのうえで、「軍備拡張競争は貴重な資源の無駄遣いです。（資源は）人類全体の発展と自然環境の保全に使われるべきものです」と指摘した。

核兵器についてのメッセージを述べるフランシスコ教皇＝24日午前、長崎市の爆心地公園、代表撮影

フランシスコ教皇が出したメッセージのポイント

- ・相互不信が対話を阻み、世界は分裂の中にある＝長崎
- ・軍備拡張競争は貴重な資源の無駄遣いだ＝長崎
- ・核兵器は、安全保障への脅威から私たちを守ってくれるものではない＝長崎
- ・核兵器の使用も所有も倫理に反する＝広島
- ・世界は相互に結ばれており、共通の未来のために、それぞれが排他的利益を後回しにすることが求められる＝広島

用も所有も倫理に反する」などと非難。長崎では各国の政治指導者に向け、「核兵器は安全保障への脅威から守ってくれるものではない、そう心に刻んでください」と求めた。

「核兵器禁止条約」にも言及し、教会として「核軍縮と核不拡散に向け、迅速に行動し、訴えていく」と日本政府に行動を促していく決意を述べた。

教皇はさらに、「二つの演説で、核軍縮をめぐる停滞する国際社会の動きに対し、深い懸念を表明した。長崎では「兵器使用を制限する国際的な枠組みが崩壊する危険がある」「多国間主義の衰退を目の当たりにしている」などと指摘。日本政府が署名していない「核兵器禁止条約」にも言及し、教会として「核軍縮と核不拡散に向け、迅速に行動し、訴えていく」と日本政府に行動を促していく決意を述べた。